

2010 年度事業報告

<2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日>

I. 概要

ESD-J の第三期（2009-2011）は、2009 年 1 月に取りまとめた「14 の政策提言」を会員や多様な分野にわたる関係者と共にブラッシュアップし、さまざまな主体と連携・協働しながら、できることから具現化していく期間としている。そして、2010 年度総会および全国ミーティングでの議論を経て、2014 年の達成目標を「持続可能な社会・地域づくりを進めるための『人づくり』を支える仕組みを構築する」と定めた。「人づくり」を支える仕組みとしては、以下の 5 点が重要であるとしている。

- ・学校教育で ESD 的な学びが展開されるための仕組み（支援体制、教員養成・教員研修）ができてきている
- ・地域レベルで ESD 推進体制や、コーディネーターの活躍できる環境が整っている
- ・地域レベルで、ESD 的な活動の交流・学びあいの場がある
- ・ESD 実践を支援するツール、ノウハウ、カリキュラム、リソースが多様な組織から提供されている
- ・上記を推進するための、全国レベルでの多様な主体の協働による ESD 推進体制ができてきている

第三期の 2 年目となる 2010 年度は、この目標達成において重点ターゲットを定め、理事による討議や会員・関係者と「2014 年目標と行動計画」づくりに取り組むと共に、具体的な仕組みづくりや研修事業、提言作成等を通して、ESD 推進の基盤を整えることができた。

2010 年度の重点ターゲットにおける具体的な成果

- ① ESD に取り組む組織や人、ESD を推進する組織につながるインフラの構築
 - ・多様なステークホルダーによる ESD 推進のためのプラットフォーム「+ESD（プラス・イー・エス・ディー）プロジェクト」の事務局を担い、普及委員会及びウェブサイトを立ち上げた。（環境省請負事業）
- ② ESD 推進を担うコーディネーターの育成と社会化
 - ・ESD コーディネーター育成のあり方検討会の事務局を担い、2 件のモデル研修の実施をふまえ、指針として「ESD コーディネーター育成のあり方について」をとりまとめた。（環境省請負事業）
 - ・ESD コーディネーターの担い手による「2014 年目標と行動計画作りワークショップ」を開催し（東京）、ESD-J の「2014 年目標と行動計画」にインプットを行った。（自主事業）
- ③ 学校教育における ESD を推進する仕組みづくり
 - ・多摩市教育委員会、東京都教育庁生涯学習局との協働により、教員向け研修、教育コーディネーター研修をそれぞれ実施し、その方法を冊子にとりまとめた。（文部科学省ユネスコパートナーシップ事業）
 - ・地域と学校の連携による ESD の推進をテーマに「2014 年目標と行動計画作りワークショップ」を開催し（金沢、東京）、ESD-J の「2014 年目標と行動計画」にインプットを行った。（自主事業）

また①にもつながるが、2010 年度は CBD/COP10 への提言づくりや、国際協力における持続可能な開発に向けた提言づくりを通して、環境 NGO、開発 NGO との連携を強化することができたこと、それらの組織と ESD のコンセプトを共有できたことは非常に大きな成果である。さらに、国際的なネットワーク形成においても新たなステップを踏み出すことができた。今後、これらのネットワークをどう発展させ、ESD および持続可能な社会づくりの推進につなげていけるのかが問われている。

なお、「2014 年目標と行動計画」に関しては、理事による討議や会員・関係者とのワークショップ

を経て作成したドラフトを 2011 年度に入って公開し、現在最終化に向けた意見募集・とりまとめを行っている。

組織運営体制の再編

2010 年度は代表理事の交代を受け組織運営理事体制を導入、また地域会員との連携や交流を強化すべく地域担当理事体制を導入した。地域の実践者とのネットワーク強化や研究者との連携による政策レベルの研究などに力を入れていくためには、会費や寄付金などによる自己財源比率をもっと高めることが必要との認識に基づき、地域ミーティングの開催にも着手し始めたものの、まだ直接的な成果にはつながっていない。

東日本大震災への対応

震災発生後、多くの会員団体・個人が、それぞれの特性を活かした緊急支援、学びあいの場づくりなどの実践活動に立ちあがっている。ESD-J ではウェブサイトおよび会員メーリングリストを活用して、会員の取り組みを中心に情報発信と後方支援に務めてきた。今後被災地は緊急支援から地域復興の段階に移行していくことをふまえ、より ESD 的な貢献が展開されていく中、ESD-J はネットワーク組織として、第一義的にはそれらの動きを把握し、伝えることで、より多くの活動を誘発していく役割を果たしていきたい。また、いのちと多様性を大切にし、地域コミュニティが主体となった地域の復興・再生の支援や、エネルギーをはじめとするさまざまな暮らしを支える必需品の生産と消費のあり方を問い直す学びあいの場づくりを通して、会員の皆さまとともに ESD の実態を作っていく。

II 事業活動

1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

【ミッション】 地域（市町村・都道府県・ブロック）で ESD 推進の仕組みづくりのサポートをする

【2010 年度の重点項目】

- ・生物多様性をキーワードとした地域づくりにおける ESD 的なアプローチの大切さとそのノウハウなどを取りまとめ、地域の人材育成に資する蓄積を行う。
- ・ユネスコ・パートナーシップ事業を通して、NPO と教育委員会の連携による、学校における ESD 推進の施策のあり方を探る。
- ・ESD の実践者同士の交流を促し、ESD の地域の推進拠点づくりにつなげるべく、できる限り多くの地域ブロックにおいて、地域ネットワークミーティングを企画する。

【事業内容】

1) 「ESD×生物多様性」プロジェクト

国内外の生物多様性を大切に持続可能な地域づくりの実践を人づくり（=ESD）の側面から分析し、ESD を地域で広げ、深め、つなげるための効果的なアプローチ方法やノウハウを整理し、CBD/COP10 に向けた提言を行った。また、COP10 に向けた活動の中で多分野の NGO との協働を実現したが、これは愛知目標実現に向け大きな足がかりとなる。なお、ESD×生物多様性人材育成ハンドブックの発行は翌年に延期になった。

（国際会議の開催は 5. 国際ネットワーク事業 を参照）（地球環境基金助成事業）

<発行物>

- ・「ESD×生物多様性しんぶん」（年 4 回、A4・6000 部）
- ・CBD/COP10 に向けた提言パンフレット 2 種を生物多様性交流フェアで配布（各 8 ページ、1000 部）

- ・ESD×生物多様性 2010 報告書（100 ページ、800 部）

2) 学校と地域の連携による ESD 推進モデルづくり

ユネスコ・パートナーシップ事業として、東京都教育庁生涯学習局および多摩市の教育委員会と連携し、学校への ESD 普及のための研究会や研修を実施し、学校と地域が連携した ESD 実践の課題やノウハウなどを抽出した。

- ・学校コーディネーターESD 研究会（東京都内 3 か所、8 月～12 月）
- ・地域と学校の連携による ESD 推進フォーラム（東京都主催、2 月）
- ・多摩市 ESD 実践研修（5 回、7 月～2 月）
- ・多摩市 ESD・ユネスコスクールセミナー（8 月）

<発行物>

- ・学校と地域で進める ESD パンフレット「希望への学びあい 2」

3) ESD 全国ミーティングの開催

ESD-J の中期戦略の重点事項について、会員・参加者と共有し、今後に向けたディスカッションを行った。参加者は例年に比べて少なかったが、ワールドカフェスタイルにしたことの評価は高かった。

<実施概要>

- ・日 時：6 月 12 日（土）13:00-18:00（18:30～交流会）
*同日 10:00-11:30 通常総会
- ・会 場：JICA 国際協力総合研修所（東京都新宿区市ヶ谷）
- ・参加者：会員、ESD 関係機関、一般 70 名
- ・内 容：学校と地域で ESD を推進するために大切なことをワールドカフェスタイルで議論した

4) 地域ミーティングの開催

地域における会員同士の交流促進や新しい関心層の開拓を行い、ESD の地域の推進拠点づくりにつなげていくことを視野に入れ、札幌、愛媛、金沢、東京の 4 地域で計 6 回の ESD 地域ミーティングを開催した。

<開催概要>

- ・金沢 12 月 27 日（月）学校における ESD 推進に向けた行動計画に関する意見交換会
- ・東京 1 月 7 日（金）・28 日（金）学習コーディネーターの社会化に向けた行動計画に関するワークショップ
- ・愛媛 2 月 1 日（火）ESD 地域学びあいフォーラムのあり方に関する意見交換会
- ・札幌 2 月 8 日（火）ESD 地域学びあいフォーラムのあり方に関する意見交換会
- ・東京 2 月 12 日（土）地域と学校の連携による ESD 推進に向けた行動計画に関するワークショップ

2. 政策提言および調査研究事業

【ミッション】 政府、地方自治体、国際機関等を通じて、ESD を推進する仕組みを作る

【2010 年度の重点項目】

- ・持続可能な社会の共通原則や 2014 年の具体的な目標、中期戦略を明確化し、重点分野における具体的な政策をつくるため、大学や研究機関との連携による調査研究に着手する。
- ・政府・他セクターとの連携の基盤として、「+ESD プロジェクト」や「SR 円卓会議」の枠組みを活用する方向で働きかける。

【事業内容】

- 1) 「2014年に向けた活動方針」の策定、ならびに重点分野における調査・研究
2014年の達成目標と実現に向けたアクションプランを固めるところまでは到達できなかったが、プロセスを重視して、理事による議論、会員との行動計画検討ワークショップを行うなど、理事や会員の声をできるだけ取り入れたドラフトづくりを進めることができた。(協賛：日能研) 今後は、2011年6月の全国ミーティングでの議論を経て早急に行動計画を最終化し、理事・会員・関係機関の連携によって行動計画を実現していく。
- 2) CBD/COP10に向けた提言もしくはアピールの策定、公表
(→1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業に掲載)
- 3) 参院選に向け、ESD認知度向上のためのアクション実施
参議院議員選挙を機に、国会議員や政党へのESDの認知度向上を目指したアクションを行った。各政党に公開質問状を送り、主な政党から回答を得ることができた。特に、自民・公明からは、マニフェストへの具体的な掲載の報告も得ることができた。
- 4) 政府のESD推進体制強化、連携取組(+ESD)の強化に関する提言活動
ESDの10年実施計画の見直しにおいて、+ESDプロジェクトを日本のESD推進の共通プラットフォームとすることなどを、政府案に盛り込むことができた。今後は、2014年目標達成に向けた政策提言内容が固まり次第、政府等への提言活動を強化していく。
- 5) 社会的責任(SR)円卓会議への参画
人づくりワーキンググループおよび協働モデル事業への参加を通じて、ESDの概念や取組、政府の施策などを、多様なセクターの関係者に紹介することができた。また、「安全・安心で持続可能な未来に向けた協働戦略」に、+ESDプロジェクトへの参加・協力を盛り込むことができた。

3. 研修および普及啓発事業

【ミッション】 ESDの理解推進、地域での活動を広げ、つなぐための研修および啓発事業を行う

【2010年度の重点項目】

- ・ESDコーディネーターの役割や技能、育成方法について調査・研修を進め、提言に取りまとめる
- ・多様な主体が参画しESDを推進する仕組みとして、「+ESDプロジェクト」を立ち上げ、多様な実践事例が登録されるウェブサイトの本格稼働、有益な地域での学びあいの場づくり等に取り組む。

【事業内容】

- 1) ESD推進のための協働プロジェクト「+ESDプロジェクト」の実施
ESDの実践活動を推進するため、多様なESD活動を可視化し、地域で交流・学びあいのできる仕組み「+ESDプロジェクト」を、官民の協働でスタートさせた(環境省請負事業)。具体的には、データベースシステムを構築・本格稼働させたことにより、登録されたESD活動を誰もがウェブサイト上で閲覧できるようになった。また、多様な分野・セクターの全国組織30団体と関係省庁が参画した普及委員会を発足することができ、マルチステークホルダーで事業を推進していく基礎をつくることができた。
- 2) ESD戦略講座 「ESD的アプローチ実践講座」のモデル実施

ESD 推進に資する研修のあり方を探り、モデルを示すことを目的に、持続可能な社会づくり・地域づくりに取り組む NPO/NGO 等を対象として、研修を実施した。これにより、「伝える技術」「調べる技術」「引き出す技術」それぞれに、具体的な技術や工夫を整理することができた。(地球環境基金委託事業)

3) ESD コーディネーター育成に関するガイドラインの作成

ESD を地域で推進するコーディネーターの資質、育成方法などについて調査・研究・検討を深め、指針として「ESD コーディネーター育成のあり方について」を作成した(環境省請負事業)。

<モデル研修実施概要>

OJT 型研修

協 力：(財) 公害地域再生センター (あおぞら財団)

開催日：10 月 16 日-17 日、1 月 28 日-29 日

組込型研修

協 力：NPO 法人日本ボランティア・コーディネーター協会 (JVCA)

開催日：12 月 18 日

4) 企業における ESD (=CSR 教育) の調査、支援

経団連主催の CSR 担当者研修において、企業における ESD の意義と取り組み方について研修を実施した。また、東洋製罐の環境コミュニケーションのあり方の検討やプログラム策定を、ESD 的な手法で支援した。さらに、パナソニック R&D ユニオン研修において、労働組合の幹部に対し、企業における ESD の意義と取り組み方について研修を実施した。

5) ESD の実践者を知り、語る「ESD カフェ」の開催

実践者、研究者の話題提供をベースに、ワールドカフェスタイルで ESD のあり方、視点を学びあうカフェを 2 回実施した。生物多様性条約第 10 回締約国会議に関連した事業 (ESD × 生物多様性) を実施していることもあり、生物多様性に関連したテーマでのカフェを行い、それぞれ海外からのゲストを迎えた。

<開催概要>

ESD カフェ①～心の開発「サルボダヤ運動」と生物多様性～

ゲスト：A. T. アリヤラトネ博士 (サルボダヤ・シュラマダーナ運動創始者)

開催日：9 月 11 日 (土) 13:30～16:30

場 所：環境パートナーシップオフィス EPO 会議室

ESD カフェ②～インドにおける政府・NGO・農民間の対話にみる ESD～

ゲスト：ラメッシュ・サヴァリア氏 (インド環境教育センター (CEE))

開催日：12 月 13 日 (月) 17:30～20:30

場 所：立教大学池袋キャンパス 12 号館第 2 会議室

6) 出前講座・研修・ワークショップの開催

企業や教育委員会、大学などの依頼に応じて研修や講演会などの講師派遣を受託し、計 19 件の研修、講師派遣を実施した。また、ESD-J 理事が、ESD-J 理事として直接実施した講座・研修は 92 件となっている。

	市民向け イベント	市民向け 講座	学生向け 講座	教員向け 研修	行政職員 向け研修	企業向け 研修	海外参加者 向け研修
ESD-J 受託	3	6	3	3		2	2
理事受託	23	19	10	32	3	1	4

4. 情報収集・提供および出版事業

【ミッション】 ESD および ESD-J に関する情報の収集・発信を通じて、会員内外へ ESD および ESD-J の理解を促進し、ESD 活動の活性化を図る

【2010 年度の重点項目】

- ・ ESD-J のこれまでの 6 年間の活動と成果を分かりやすい形に取りまとめ、発信する
- ・ 機関誌、ウェブサイト、メールマガジン等のメディアを通じて、国内外の ESD に関する情報を発信すると共に、ESD-J の事業に関する成果も積極的に発信していく。
- ・ ツイッターや動画配信など新たなメディアツールの可能性を探る。

【事業内容】

1) 活動成果普及リーフレットの発行

「2014 年目標と行動計画」の取りまとめが遅れたため、普及リーフレットの作成に着手できなかった。

2) 機関誌「ESD レポート」の発行

ESD の実践や国内外の動き、ESD の実施に役立つ情報の提供などを通じて、ESD の理解と普及を促進した。しかしながら、年 4 回の発行予定のところ、編集の遅延と震災の影響を受け、2010 年度は 3 回の発行にとどまった。

3) 各種メディア（ウェブ、メールマガジン等）を通じた情報発信

ESD-J のウェブサイトにおいて、イベント関連情報を中心に年間 147 本の新規記事を掲載し、情報提供を行うとともに、震災に対応した情報を掲載した。メールマガジンは年間 16 本を発行した。会員メーリングリストでは、月間 50 件程度の情報交流が会員間で行われた。

5. 国際ネットワーク推進事業

【ミッション】 ESD に関する情報の国際的な受発信の窓口となり、ESD を推進する国際的な NGO ネットワーク（特にアジア太平洋地域を中心として）の形成と促進を図る

【2010 年度の重点項目】

- ・ 関係機関と連携しつつ、国際的な ESD 情報を国内へ提供する
- ・ 様々な国内情報を提供することにより、国際社会において、日本の ESD の視点・活動のプレゼンスを向上させる
- ・ CBD/COP10 に対して ESD という立場から貢献する。
- ・ ESD を進めるために有効な NPO/NGO の国際協力・国際貢献の仕組みを検討する
- ・ アジアを中心とする ESD の推進と発展のためのネットワークの再構築について検討する

【事業内容】

1) ESD に関する内外の重要情報の収集・提供とそのための体制の強化

ユネスコ及び CSD を中心とする国際的な ESD の動向に関する情報の国内関係者への提供を事務局より随時行った。また、CBD/COP10 その他の機会をとらえ、ESD に関する英文国内情報の収集及び国際的な発信を行った。6 月の総会・全国ミーディングにおいて本活動への支援、協力を呼び掛けたが、その後体制作りには至っておらず、2011 年度の課題となった。

2) 持続可能な開発の促進・強化に向けたフォーラムの企画・開催

アジア地域において日本の NGO が持続可能な開発に向けた活動をより活発化していくこと

を目的とした NGO 連携検討会合を、2009 年度に引き続き開催、全 3 回の NGO 連携検討会合を行い、「NGO 連携検討会合による提言」を取りまとめた（環境省請負事業）。また、NGO 連携フォーラムを開催し、提言案をもとに、国際協力において持続可能な開発を有効に進めていくための人づくり、指標、交流・連携のあり方などについて討議した。

<開催概要>

開催日時：3 月 8 日（火）10:00～17:30

会場：日本教育会館

参加者：国際協力 NGO、国内地域づくり NGO、関連省庁、企業、研究者など 70 名

<発行物>

NGO 連携検討会合提言「アジアの持続可能な地域づくりのための国際環境協力政策へ！」

3) アジア ESD ネットワーク再構築に向けた検討

アジアにおける NGO による ESD ネットワークの意義、運営形態、オーナーシップの在り方について議論を行うべく、AGEPP の関連 NGO と共に、インドネシアのスラバヤでワークショップを開催し、2014 年をめどとしたネットワークの設立についての合意を形成した。また、国連機関や日本政府、国内の国際協力団体を招聘し、東京で国際公開フォーラムを開催、NGO による ESD 活動の重要性やネットワークの意義を共有し、今後の協働・連携の可能性についての意見交換を行った。（米国キャタピラ財団助成事業）

<開催概要>

スラバヤワークショップ

開催日時：8 月 1～4 日

場所：PPLH 環境教育センター(インドネシアスラバヤ市校外)

共催：BINTARI 財団

アジアと日本をむすぶ国際公開フォーラム：ESD に取り組むアジア NGO ネットワーク構築～2014 年(ESD の 10 年最終年)にむけて国際社会、政府、NGO ができること

開催日時：12 月 12 日

会場：立教大学太刀川記念館

共催：立教大学 ESD 研究センター

<発行物>

Towards 2014, the Final Year of UNDES D

2010 Project proceedings for the establishment of Asia NGO Network on ESD

4) CBD/COP10 に向けた ESD からの提言とサイドイベントへの参加

「ESD×生物多様性」事業やアジア実践事例交流事業（AGEPP）での事例分析を踏まえ、スラバヤワークショップにおいて、アジアの NGO、その他関係者とともに、CBD/COP10 に向けたアジアの ESD に関わる NGO からのメッセージを作成し、CBD/COP10 において配布した。また、CBD/COP10 サイドイベントとして「ESD meets CEPA」を主催し、このメッセージをアピールするとともに、CBD と ESD との連携について討議し、その必要性を合意することができた。

さらに、CBD 市民ネットにおける持続可能な開発に関連したワーキンググループ「生物多様性と開発～貧困・人権・地域づくり～作業部会」への設立から関与し、ポジション・ペーパーの作成に貢献した。

<開催概要>

ESD meets CEPA ～CBD/COP10 後を見すえて「生物多様性の 10 年」と「CEPA」をどうすすめるか～ESD の視点から

開催日時：10 月 19 日（火）11:00-16:00

会場：名古屋学院大学体育館 1 階 小会場 2（生物多様性交流フェア）

Ⅲ. 会議等

<総会>

通常総会 6月12日(土) JICA 研究所

<理事会>

第1回理事会 5月8日(土) 立教大学12号館2F会議室

第2回理事会 6月18日(金) ESD-J 会議室

第3回理事会 12月23日(木・祝) ESD-J 会議室

<理事懇談会>

第1回 9月5日(日) 環境パートナーシップオフィス会議室

第2回 12月23日(木・祝) ESD-J 会議室

Ⅳ. 会員・理事・事務局等 (2011年3月末現在)

<会員> ※()内は2010年3月末の数

団体正会員 83団体(91団体) 個人正会員 117名(125名)

団体準会員 15団体(14団体) 個人準会員 184名(209名)

賛助会員 6団体(5団体)

連携交流団体 5団体(5団体)

<理事>

代表理事 重 政子

副代表理事 池田満之

理事 池田誠、大島順子、小金澤孝昭、櫛田敏宏、杵本育生、鈴木克徳、竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森良、山下邦明、吉澤卓

*役割

地域ネットワークの形成/交流支援事業 PTリーダー：森良

地域担当理事： 【北海道】池田誠 【東北】小金澤孝昭

【関東】森良 【北陸】鈴木克徳

【東海】櫛田敏宏 【近畿】杵本育生

【中国】池田満之 【四国】竹内よし子

【九州】三隅佳子、山下邦明

【沖縄】大島順子

政策提言および調査研究事業 PTリーダー：池田満之

研修及び普及啓発事業 PTリーダー：大島順子

情報収集・提供および出版事業 PTリーダー：吉澤卓

国際ネットワーク推進事業 PTリーダー：鈴木克徳

組織運営理事 重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里

<監事>

浅見哲、吉岡睦子

<顧問>

阿部治、池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル

<事務局>

- 事務局長 村上千里
- 事務局次長 佐々木雅一
- スタッフ（常勤） 野口扶弥子、鈴木祐司、長澤正嘉
- （非常勤） 相良洋子、中塚美恵